

井草会報

発行 昭和53年9月1日
第17号

新同窓会館設立にむけて

同窓会会长 野呂俊一

井草高校同窓生の皆様にはますます御元気に御活躍のことと存じます。我が母校井草高校は昭和十六年創立以来三十八周年目を迎え、高女時代五回、高校になり三十回の卒業生を社会に送り出し、恩師の方々、現教職員、卒業生、在校生を

トータルしますと一万三千名の大きな仲間が、この練馬の地、上石神井の町で生活を共にしたことになります。この間、母校井草高校には、昭和四十五年に水泳プールが、昭和五十年には三階建の立派な体育館も完成し、昔を偲ぶ木造校舎はまたなくななり、時の流れのはやさをひしひしと感じる次第であります。

井草高同窓会も母校の発展ほど輝かしいものはありませんが、若い幹事の皆さんが中心になつて、同窓生名簿の作成、会報、総会、会費徴収などの地味な仕事をこつこつと続けて来ています。この春には六年ぶりに立派な名簿も完成し、同窓生の皆さんのお手元に届けられていることと思います。

さて、これだけ大きな仲間にふくれあがつてきますと、同窓会、同期会、クラブ会、クラブOB会、謝恩会、結婚パーティなど氣楽に会合の出来る場がほしくなってまいります。すでに多くの卒業生の受けつけながら、すくすくと立派に育っています。今後も卒業生全員で大きな輪をつくりながら、このよき母校の発展を暖かく見守っていきましょう。

そこで、もっと使いやすい、会員の交流の場となりうるような新しい同窓会館を作りたいという願望から委員会の発足となつた次第です。

この決議は、幹事会、役員会の発議ではなく、当日、一般幹事より出されたもので、現在ある同窓会館は、だいぶ老朽化し、タタミなども学校の方で取り替えていますが、あまり会合などの場として使える所ではありません。

また、同窓会館とは名ばかりで、幹事会で使おうと思っても、学校の許可を得なければなりません。学校の許可というのも簡単なものでなく、同窓会の顧問の

新同窓会館設立委員会発足 —新たな会員の交流の場を—

幹事総会にて決議!!

去る四月九日に行われた幹事総会において、「新同窓会館設立のための委員会を設立する」という決議が、出席者全員の賛成をもつて可決されました。

先生・教頭先生・事務長・校長先生の印を必要とし、時には、一週間毎日学校へ行ってやつと許可をもらうことができたこともありました。一般会員が使用する場合も同じ手続きと、現在、井草高にいる先生が同席することが必要とされ、簡単にクラス会などを開けません。

また、昨年から、照明やドアの修理をやりたいと思っても、勝手にはできず、結局学校が、やつてくれるのを待たなければならず、いろいろ不便なことが多いのです。

そこで、もっと使いやすい、会員の交流の場となりうるような新しい同窓会館を作りたいという願望から委員会の発足となつた次第です。

井草高同窓会も、今まで細々と維持してきていました。今後、長期計画のもとに新しく在校生の茶道部や華道部の御稽古の場と替えながら今日まで細々と維持してきていました。

(現在、明治薬科大学助教授・理学博士)

幹事会――ユース

新役員

今年度同窓會中止

昨年役員に選出された庶務の伊藤禪子さんが、任期はまだ一年ありますが、都合により、役員の仕事を続けることが出来ないとのことで、四月九日の幹事総会にて了承され、左記の二人が新役員として承認されました。尚、庶務の定員が一人オーバーいたしましたが、これは本人たちのたっての希望であり、特例として幹事総会で同時に承認されました。

△年度の同窓会は名簿作成のために充分な準備期間がなく、また、ここ数年間の参加者の少なさによる低迷などの理由などから、毎年続けてきたものだから今年も続けて行きたいなどの意見もありましたが、四月二十三日の幹事会において、多數決による僅少差によって中止に決定されました。

しかし、これからずっと行なわないわけではなく、よりよい、より多くの人のために

△年度の同窓会は名簿作成のために充分な準備期間がなく、また、ここ数年間の参加者の少なさによる低迷などの理由などから、毎年続けてきたものだから今年も続けて行きたいなどの意見もありましたが、四月二十三日の幹事会において、多數決による僅少差によって中止に決定されました。

しかし、これからずっと行なわないわけではなく、よりよい、より多くの人の参加が期待できる同窓会を作ろうと努力するつもりですので御了承下さい。

昭和五十三年度版の名簿完成しました。すでに千名以上の
お買い上げいただき、御利用いただいていることと思います。
だき、名簿を御送りいたしま

今年度、新同窓会館設立、新しい同窓会のあり方など、多くの問題をかかえている幹事会では、夏休みに研修会を開く予定です。（会員の皆様にこの会報が着くころには終っていますが、）この研修会において、昨年の名簿作成の時同様、幹事会の基盤を固め、諸問題に対処して行くつもりです。

また、広く会員の皆様から、御意見などをよせいただきたく思っております。どしどし井草会宛におよせ下さい。

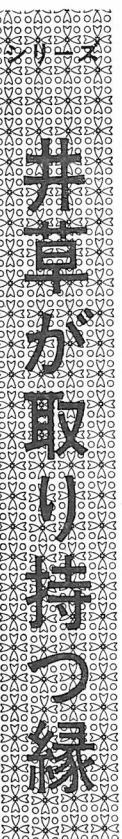
尚、まだ多少残部がありますので、購入御希望の方は同封いたしました振り替え用紙にて、会費と一緒に御送金下されば御送りいたします。（三十回卒の方々は、振り替え用紙は同封しておりませんので各クラスの幹事に申し込み下さい）名簿は一部千七百円で、別に郵送料百六円と一緒に御送り下さい。

井草、新聞に載る

昭和五十三年度版の名簿が完成いたしました。すでに千名以上の会員の方々に
お買い上げいただき、御利用していただいていることと存ります。尚、御予約いた
だき、名簿を御送りいたしました方々の

昭和52年度決算及び 53年度予算	
4月9日の幹事総会で以下の様に成立致しました。	
〔52年度決算〕	
○収入	
新入員会員費	407,000
前年度繰越金	288,621
(名簿準備金)	(250,000)
会費	469,000
寄付	468,000
雑収入	25,551
計	1,658,172
○支出	
会報印刷・発送	523,970
同窓会準備	57,372
幹事会費	58,255
不明者一斉調査	472,900
名簿編集費	12,300
名簿内金	200,000
雑費	12,990
次年度繰越金	320,385
計	1,658,172
〔53年度予算〕	
○収入	
新入員会員費	810,000
前年度繰越金	320,385
会費(見込み)	500,000
名簿代(目標)	2,268,000
雑収入	10,000
計	3,908,385
○支出	
同窓会通知	300,000
会報印刷・発送	600,000
同窓会準備	100,000
幹事会費	70,000
名簿印刷・発送	2,000,000
交通費	100,000
雑費	10,000
予備費	728,385
計	3,908,385





おめでとう 宍戸君、北野さん!!

— 同窓会を通じて育つた愛 —

媒約人 野呂俊一

一九七八年三月十二日午後三時、霞ヶ関ビル三十三階東海大学校友会館において、宍戸文男君（高校19回卒29才 担任 淀脇晃先生）と北野鈴子さん（高校26回卒22才 担任小沢省三先生）の御二人の華やかな結婚披露宴が行なわれた。井草同窓会での仕事を通じて結ばれた御二人のこの結婚式に、不肖私が媒酌人を相務めさせていただいたことは生涯忘れることが不可能と思いつたことと深く感謝している次第であります。

この結婚式は、まさに「井草同窓生の集い」という感じであった。まず、この式場を紹介し、いろいろアドバイスしてくれたのが新田秀夫君（22回卒）であり、当日の名司会が石川正男君（18回卒）、名アシスタントが三村のりこさん（25回卒）その他、原田英一君（26回卒、現副会長）、岡田至弘君（26回卒、現庶務）など20数名の井草高関係者が列席していました。新婦鈴子さんは、井草卒業生の中でも折りの美人で、真赤な文金高島田もブルーのイングレスもとてもよく

似合い、まばゆいような美しさであった。新郎の文男君もやせ型の男前で、まさに美男・美女の似合いのカップルであった。セレモニーの途中で、新郎・新婦を交えて高らかに合唱した「井草高校歌」が今もこの耳にやきついている感じがする。御二人は、セレモニー終了後、ハイに四泊五日のハネムーンに出かけられている。

ここで、御二人の歩まれてきた道をかいつまんで紹介しておく。

新郎文男君は、井草高時代は器械体操部で活躍され、学業、スポーツの両方に秀れた学生であった。その証拠に慶應大学工学部に、ただ一名の推薦入学で入学している。大学時代は電子工学の学問技術を学び、現在は「大和エンジニアリング」という近代的情報関係の会社で、第一線のシステムエンジニアとして日夜大活躍されています。また、井草高卒業とともに同窓会の幹事としてもよく仕事をやり、庶務、会計、副会長、会計監査などを歴任しています。五、六年前の井草

市にあります青葉小学校に勤務されています。また、井草高卒業と同時に同窓会の幹事の仕事もやられ、一番難用の多い庶務を担当されてきました。同窓会の幹事会というところは、なかなか女性が育たないところですが、今後共、なにかと後輩女性を指導し、同窓会のバックボーンとなっていました。一方、昭和四十一年着任の高野先生は、「第三職員室の花」と呼ばれた時期もあったほど美人の先生です。その先生のポケットに手をつっこみ、黒板をよごし放題よごす熱氣あふれる授業は井草祭の展示会で映画になるほどすばらしいものでした。

両先生は井草の名物先生でしたが、今年の四月から柳田先生（結婚なさって高校野球になられたそうですが、）は光ヶ丘高校の方へ移られました。

両先生、本当に、おめでとうございます。どうぞお幸せに!!

(I)

井草が取り持つ縁をシリーズで続けたいと思いますので、会員の皆様御協力下さい。井草同志で御結婚なされた方は何十組もあると思います。当人でなくとも友人のことでも結構ですので御投稿下さい。また、そういうカップルを御存知の方は井草会宛に御一報下さるだけでも結構です。

柳田先生と高野先生もゴーリン

会会報や名簿など、彼の努力によつて作成されたものが沢山あります。後輩達にも大変人望が厚くまさに同窓会にはなくてはならない人物であります。

一方、新婦鈴子さんは、井草高時代、卓球部とコーラスをやっておられ、これまた才媛才女であります。井草高卒業後は東京学芸大学家庭学科で学ばれ、この春、この就職難の時代に見事、東山村教員採用試験にパスされ、現在、東山村

昭和四十七年着任の柳田先生は、「明日やれ」をモットーとし、ワンドーフォーゲル部などの顧問をし、生徒の中とけこみ、先生らしく

日できることは、明日やれ」をモットーとし、ワンドーフォーゲル部などの顧問をし、生徒の中とけこみ、先生らしく御結婚なさいました。

今年の四月、社会科の柳田学先生と、同じく社会科の高野輝子先生がめでたく結婚なさいました。

昭和四十七年着任の柳田先生は、「明日やれ」をモットーとし、ワンドーフォーゲル部などの顧問をし、生徒の中とけこみ、先生らしく御結婚なさいました。

柳田先生と高野先生もゴーリン

（現・同窓会会长）

井草が取り持つ縁をシリーズで続けたいと思いますので、会員の皆様御協力下さい。井草同志で御結婚なされた方は何十組もあると思います。当人でなくとも友人のことでも結構ですので御投稿下さい。また、そういうカップルを御存知の方は井草会宛に御一報下さるだけでも結構です。

井草会報

社会人一年生

村上俊雄

井草を卒業してはや五年。私も社会人の仲間入りをすることができた。あの高校時代の級友達は今頃どこで何をしているのだろう。そう言えば、先日、大学時代の知人の結婚式で、偶然、深海さんに出会った。雰囲気はかなり違っていたがすぐ彼女であることがわかった。彼女の友人も数人来ていたが、クラスが同じでなかつたせいか、顔を見ても誰だか思い出せなかつた。それでも、同じ高校を、時を同じくして卒業したせいか親しみを感じられた。深海さんから、黒沢さんが結婚して子供が生まれるらしいといふでいた話を耳にした。へえー、F組にももうそんな人がいるのか。私は、驚きと同時に、自分もそんな年令になつたのかと残念な気がした。心中ではもつと若いつもりでいたのに。そう言えば、私ももう学生を卒業して勤めに出ていたんだした。

偶然とは誠に恐しいものである。深海さんの勤務先と、私の勤務している会社の本社とは隣り同志のビルなのである。私が勤めているのはコーニングアンドカンパニーという総合商社で、本社は日本橋の丸善ビルの中にある。残念ながら私は本社勤務ではない。毎日、人形町にある東京分室までかよっている。東京分室は明治座の真横にある東味ビルの五階にあ

り、コンピューター部門だけのこじんまりした職場である。(コンピューターの電力の関係で本社に入れなかつたのである。) 経理の仕事の一部をコンピューターで計算したり、種々の分析を行なつたりが主たる仕事である。当然のことながら私もコンピューター関係の仕事に従事している。

だが大問題が一つある。私はコンピューターの知識が全くないのである。そればかりか、経理のことや商取引、簿記などのこともほとんどわからないのである。なにをかくそう、私は文学部の西洋史を専攻していたのです。勤めてからまだ四ヶ月。未だに手さぐり状態。現在は、仕事と勉強を同時にやつているような感じである。現在は、一応、オペレーターの仕事をしている。結構動かせるものである。だが、どうしてそのように動くのかは全くわからない。あまりに無知なせいかこわいもの知らずである。このような状態で働いているので、私に割り当てられている責任とはわずかなものである。

新入社員のほとんどが、まあ私と似たりよつたりの状態だと思う。今はこれしかたがないと思う。しかし、将来は責任ある仕事をしたい。責任ある仕事とは、自分だけにまかせられた仕事なので、やりがいもあるし、やりとげた時の満足感も大きいことだろう。できるだけ早く、一人前の社会人として認められるようがんばりたいと思う。

進学校「井草」と就職

原田英一

井草高校においては、多くの方が大学・短大に進学することを当然として受けとめている。それは高学歴社会の潮流にのつた事実であり、特に言及することはないのだがなぜ大学に進学するかとい

う問い合わせて、各人の目的意識は必ずしも明確ではない。大学四年間を、何もせず無駄に過ごしてしまう人も少なくはないだろう。

現在のように厳しい就職状況では、大學の肩書は何の効力も有しない。また、大学で学んだ程度の知識では、実社会において何の役にも立たない。実社会で通用するような資格を自ら取得するよう心掛ける事が大切になってくる。各種検定を受験したり、技能を身につけるなどである。もつと積極的に、大学一边倒をやめ実務重視の専門学校をめざす事も就職に関して実際に相当有利なものとなる。

例えば、女子の場合、四年制大卒は企業から数遠されており、短大・専門学校に對して求人が集中する傾向が年々強くなつてきている。

井草が週刊紙の一流大学合格者一覧に多く登場するのは、それだけで卒業生として喜ばしい事なのかもしれないが、井草が受験一辺倒の予備校化するのを望まない。大学・短大の進学率だけ、その学校の評価を決めるような風潮、社会全體が高学歴を当然とする風潮が強く、そ

れにより大学の肩書を過信し、将来の自分の進路を誤る一因ともなつてゐるのでないか。結局は、就職難の現実に直面した時に動搖するばかりで、自分自身を見失つてしまふだろう。将来に対する目標を自ら定め、明確な目的意識を持ち、進路を決定する事が最も重要であろう。

井草高校においては、多くの方が大学の肩書を過信し、将来の自分の進路を誤る一因ともなつてゐるのでないか。結局は、就職難の現実に直面した時に動搖するばかりで、自分自身を見失つてしまふだろう。将来に対する目標を自ら定め、明確な目的意識を持ち、進路を決定する事が最も重要であろう。

井草を卒業して数年が過ぎ、井草時代の友だちとも会うことが少くなり、井草は私の中で思い出だけとなりつつあります。

しかし、私は思い出だけの井草に何の興味もありません。この会報にもよく、井草時代を懐かしがる思い出が投稿されておりますが、それだけなら井草時代は空しく、寂しいものではないでしようか。実際に井草時代の友人や先生などと交流を続け、いつまでも現実のものとして、井草とかかわりあつてこそ、思い出もありいつそ懐かしいものになるのではないかと存じます。

生活の一部に今も尚、井草とかかわりを持ち続けている人こそ、本当に井草時代を大切に、有意義に過した人ではないかと思ひます。

現実の井草に何らかの形で触れていくのが、井草を思い出だけのものとはしたくないと思い、今もできるだけ、井草時代の友人に会うことはできませんが、電話をし手紙を書いています。

(三矢小)

夏合宿

第三回同窓会夏合宿が昨年八月に山中湖で行なわれました。合宿には十名の幹事が出席しました。例年より幹事の出席人数が少なく少々心配しておりましたがそれも吹き飛ぶくらい充実した合宿となりました。

同窓会の合宿の目的は、毎日日曜日に行なわれる幹事会では時間が足りなく、なかなかつら込んだ話し合いが難かしいため、二日間くらいまとめて、いくつかの議題について徹底的に話し合おうとうことで、毎年夏に行なわれています。今回の合宿は新名簿作成・発行について、会報についておよび財政危機の打開策について話し合いました。

討論は初日の午後いっぱいと二日目の午前中に行ないました。出席したすべての幹事からいろいろと活発な意見が出で内容はかなり濃いものとなりました。

自由時間となつた初日の夜は花火をして翌日のための銃氣を養い、二日目の午後は山中湖でボートに乗つたり馬に乗つたり（この馬の中にはたいぶ歳をとつている馬もいて乗るのがかわいそうでした）ゲームなどをして帰路につきました

今回の合宿をふり返つてみると、例年のものよりも一泊少なく（例年は二泊）他の議題についての話し合いができず残念でした。しかし今回の議題のうち新名簿については、今年の五月に発送まで完

了し合宿の成果は大きかったと思ひます。また、次回からはより多勢の幹事に出席してもらいたいと思つています。（S）

雑記

左上の写真を見てもわかるように、井草会の幹事会は若手、特に学生中心に成り立つてゐるのです。地味な仕事や単純な作業の多い幹事会は、やはり時間的都合のつけやすい学生中心になつてしまふのは当然のことかもしれません。

しかし、現在では、今まで、幹事会の中心的存在であった、二十五、六回卒の人たちは、ほとんど社会人になられました。そしてその後を受け継ぐべき、二十七、八回の幹事は、あまり幹事会に出席せず、その役を果たせずにあります。ぼくは二十八回卒ではありますが、他の同

回卒の人々の出席は皆無に等しい状態になりつつあり、諸先輩の幹事より、非難の的となつております。ぼくは、他の人の分も頑張ろうと今まで、微力ながら努力してまいりました。会報の編集も今度で二度目ですし、名簿作成の責任者も務めてまいりました。また、会計の雑用も多く、時には投げだしたくなるようなこ



吉報

長年、同窓会の仕事をされてきた石川正男さん（18回卒）と新田秀夫さん（21回卒）が相続いで御結婚なさいました。

尚、石川さんは、今年四月に御長男が誕生されました。

石川さんは前回の名簿の責任者をされ

同窓会会員の原簿の作成に努力された方です。また、新田さんは、十年前ほど前

は、また、ここ二、三回の幹事会に二十五回卒の幹事の出席がなくなつてしまつたのです。このままするいくと、ひょっとしたら、来年の役員改選に当り欠員がでてしまい、当然のごとく活動も最

井草会住所

〒177練馬区上石神井一丁目

都立井草高内井草会

発行 井草高校井草会
発行責任者 石田英夫
印刷所 有限会社 かどや印刷
練馬区下石神井五丁目一三七

小限になつてしまつよう気がします。幹事の皆様もお忙しいとは思ひますが、できるだけ参加してくださるようお願ひいたします。
また、今年庶務になられた菅原さんはもともとは幹事ではありませんが、今や若手幹事の中心的存在になりつつあります。ですから、一般会員の方々の中に、仕事を手伝つていただけるような方がおりましたら、井草会宛、御一報下さい。

ぼくは、前回の会報同様、今回の会報に満足できません。もつと広い会員の皆様の交流の場の一つとしてこの会報を利用していただきたいと思つております。また、現在、ぼくは、千葉県の松戸に住み、以前のように直接会員の皆様から御用には応じられませんが、週に一回は会計の仕事で、井草の方へ行きますので友人の住所などの問い合わせなどの御用がありましたが、井草会宛に、御一報下されば、できるだけ早く御返事差し上げるつもりですので、フルに活用して下さい。

がありませんから、井草会宛に、御一報下されば、できるだけ早く御返事差し上げるつもりですので、フルに活用して下さい。